



2024年7月5日よりTEZUKAYAMA GALLERYでは初の木村剛士個展 "Deaf Voice - 時間に耐えたくない"を開催いたします。

1980年、東京都生まれ、宮城県出身。多摩美術大学院美術研究科彫刻専攻を修了。

これまで芸術祭を中心に数多くのサイト・スペシフィックな彫刻を発表してまいりました。2020年の六甲ミーツ・アートではテニスコートを湯船と見立てた大型のインスタレーションを発表(*1)、ART OSAKA EXPANDED 2023では、名村造船所跡地にて8隻のボートが漂う空間をつくりあげました(*2)。どちらも共通している点は彫刻"物"としてとどまっていなくて、鑑賞者が彫刻の背景に想いを馳せることで変化する時間軸も作品の一部となるのです。また、時代や環境の変化から発生したエネルギーも木村の作品からは感じ取ることができます。

本展ではまず、作家自身を主点とするミクロな時代(世代/時間)から社会と彫刻の在り方を考察します。同世代だからこそ分かり合えること、世代が変わり引き継がれなかったものをそっと拾いあげた作品が並ぶことは今を観察するための重要な役割を担っているのです。この機会にぜひご覧くださいます。

アーティスト・ステイトメント

話というのは考えていることや感じたことを比較的近い意味の言葉に置き換えて伝える抽象的な表現なので、そこからポロポロとこぼれ落ちてしまう欠片が、実は芯だったりすることがあります。ですから、この文章もまた芯を捉えられていないと思うので、私とあなたとの出会いのきっかけ位として読んでください。

「ホームサイン」。

この言葉を知ったのは「デフ・ヴォイス」というドラマで(正確には体感としては知っていたが)、聴覚障害者を親に持つ主人公が、法廷通訳をきっかけに物語が進んで行くという内容です。話の中でホームサインしか使うことが出来ずに、社会的に孤立してしまった聴覚障害の方が出てきます。ホームサインとは、親と子や兄弟間など近い間でのみ成立する身振り手振りのジェスチャーで、手話とは違いこれといった文法はないそうです。

なので、ホームサインを使う近親者との関係性が途絶えてしまうと、存在自体がなくなってしまう、脆くて儚い時代に耐えられない表現とも言えます。

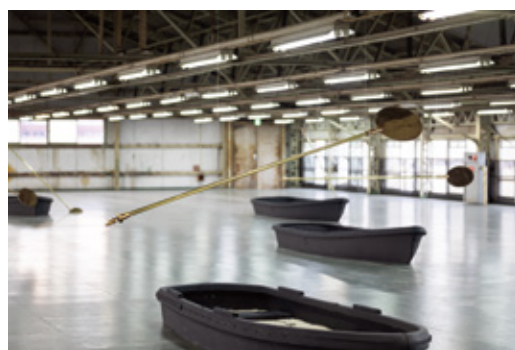
時代に耐えられないというと、若い世代は自転車のスポークにボールを入れて移動する文化なんて知る由もないですよね。インターネットもない時代に、当時の子供たちの間で何故か全国的に流行った文化です。スポークを台座としてボールを挟み込む彫刻的な設置方法は、世代が変われば忘れ去られる個人史の欠片で、ホームサインと同じように「時間に耐えられない彫刻」と言えるかと思います。

この展覧会では色々な世代がある種の部族(トライブ)と捉えて、私の世代の文化(40代)を彫刻として展示することで、世代間の関係性を再考することを目的としています。

野生の思考のように世代というトライブが違って、根本的な構造は変わらないし、優劣もありません。私が体験したテニスボールとスポークの関係性に近い事柄は、様々な圧力に耐えることが出来ませんが、人類の歩みが始まってから星の数ほど生み出されは消えていった表現の一旦です。今後も声高な社会性や効率化とは別な歩みで更新されていくでしょう。



*1 "戻れない、過去に浸る日もあっていい"
六甲・ミーツ・アート 2020



*2 "sea the sun"
ART OSAKA EXPANDED 2023 / 名村造船所跡地



□ 作家略歴 | Biography

木村剛士 | Takeshi Kimura

- 1981 東京都生まれ
2003 東北生活文化大学 家政学部生活美術学科卒業
2007 多摩美術大学院 美術研究科彫刻専攻修了

主な個展

- 2024 「Deaf Voice - 時間に耐えたくない」| TEZUKAYAMA GALLERY, 大阪
2017 「N.E.blood 21 vol.60 木村剛士展」| リアスアーク美術館, 宮城
「誰もいないところからの眺め」| 多摩美術大学彫刻ギャラリー, 東京
「IN CONCRETE」| FEI ART MUSEUM YOKOHAMA, 横浜
2015 「木村剛士|Lonely Planet~世界の歩き方~」| 秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT, 秋田
「偽彫刻」| SARP, 仙台
「Hello.goodbye forever」| ギャラリーユマニテbis, 東京
2013 「Livestock」| ギャラリーユマニテbis, 東京
「black fog」| SAKURA GALLERY, 東京
2011 「effect anatomy」| ギャラリー・オカベ, 東京
2007 「木村剛士展」| Live & Moris, 東京
2006 「木村剛士展」| Live & Moris, 東京

主なグループ展、アートフェアなど

- 2024 彫刻学科教員展2024 | 多摩美術大学彫刻ギャラリー, 東京
2023 ART OSAKA EXPANDED 2023 | 名村造船所跡地, 大阪
2022 ART FAIR ASIA FUKUOKA 2022 | 福岡国際会議場, 福岡
越後妻有 大地の芸術祭 2022 | 川西エリア ナカゴグリーンパーク, 新潟
CADAN×ISETAN MEN'S | 伊勢丹新宿店 メンズ館, 東京
Directors' Selection - FOCUS | TEZUKAYAMA GALLERY, 大阪
2020 新鋭作家展「第9回優秀者 遠藤夏香・木村剛士<ざらざらの実話>」| 川口市立アートギャラリー・アトリア, 埼玉
六甲ミーツアート芸術散歩 | 六甲山, 兵庫
2019 黒川里山アートプロジェクト「緑と道の美術展」| 川崎, 神奈川
2018 かみこあにプロジェクト2018 | 上小阿仁, 秋田
六甲ミーツアート芸術散歩 | 六甲山, 兵庫
ART MIYAGI2019 | 宮城県美術館, 宮城
2017 かみこあにプロジェクト2017 | 上小阿仁, 秋田
2016 かみこあにプロジェクト【KAMIプロ・リスタ】| 上小阿仁, 秋田
T-ism展 | 日本橋高島屋, 東京
あきたの美術2016 | 秋田県立美術館, 秋田
2015 河北新報 東日本大震災特別企画展「1462days~アートするジャーナリズム~」| 銀座, 東京
大地の芸術祭 KAMIKOANI PROJECT AKITA2015 | 上小阿仁, 秋田
あきたの美術2016 | 秋田県立美術館, 秋田

受賞歴

- 2020 六甲ミーツ・アート 芸術散歩2020 有馬温泉 太閤の湯賞
2014 平成25年度宮城県芸術選奨新人賞 宮城県美術館
2010 トーキョーワンダーウォール2010 東京都現代美術館
群馬青年ビエンナーレ2010 奨励賞 群馬県立近代美術館
2006 岐阜県各務原市官学共同彫刻設置事業 大賞 各務原市

□ 作品 | Artworks



《live log》
2022 / BMX, ブロンズ, 鋳砂



《見続ける彫刻 / pathfinder sculpture》
2023 / 田引紐、合板、傘釘



《wall of flesh》
2017 / FRP



《inside out》
2020 / 鋳物屋からの借用物、木型屋からの借用物、トタン、モニター、木材

□ 展覧会情報 | Exhibition Information

木村剛士 | Takeshi Kimura
Deaf Voice – 時間に耐えたくない
2024.7.5 [Fri] - 8.3 [Sat]

営業時間: 火 - 土 12:00 - 19:00 | 休廊日: 日曜日・月曜日・祝日
OPEN: Tue - Sat 12:00 - 19:00 | CLOSED: Sunday, Monday and Holiday
お問合せ: info@tezukayama-g.com / 山本 (TEZUKAYAMA GALLERY)

〒550-0015 大阪市西区南堀江1-19-27山崎ビル2F
Yamazaki Bldg. 2F, 1-19-27 Minami-Horie, Nishi-ku, Osaka, 550-0015 JAPAN
t: +81 6 6534 3993 | e: info@tezukayama-g.com

